

## 「主な取組」検証票

施策展開	3-(10)-カ	沖縄県産業・雇用拡大県民運動(みんなでグッジョブ運動)の推進		
施策	①県民一体となった産業・雇用拡大の推進			
(施策の小項目)	○みんなでグッジョブ運動の推進			
主な取組	グッジョブ連携協議会等産学官で構成された協議会の設置支援(就業意識支援環境づくり)	実施計画 記載頁	314	
対応する 主な課題	○雇用者数拡大と完全失業率の改善(全国並み)を基本目標に、平成19年より企業、学校、家庭・地域社会、マスメディア、行政機関などの県民が一体となって取り組んできた「みんなでグッジョブ運動」の結果、平成18年と比べ就業者数は2万2千人増加し(H23)、完全失業率は7.7%から7.1%(H23)への改善が見られる。しかし、なお完全失業率の全国並みには至っていないことから、今後の効果的な運動展開の形態を見極めつつ、引き続き各主体の連携のもとに推進していく必要がある。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	若年者の就業意識向上を目的に産学官・地域連携協議会を設置し、ジョブシャドウイング事業をツールに地域の産学官連携の仕組み作りを推進する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	10ヶ所 協議会	15ヶ所	20ヶ所	25ヶ所	→	→	県
	地区コーディネーターの育成及び配置等による拠点地区の支援、学校現場への普及啓発						
担当部課	商工労働部 雇用政策課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄型産学官・地域連携グッジョブ事業	120,183	99,672	本部町、石垣市、与那原町、久米島町、多良間村、今帰仁村、浦添市、糸満市、宜野湾市、南城市の10地区において、若年者等の就業意識向上の取組みに係る独自の活動に対する補助を行った。また、補助が終了した協議会等や協議会の設置を検討している地域に先進事例の紹介や研修会等の側面的支援を行った(12地区)。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
産学官・地域連携協議会等支援数			25ヶ所	22ヶ所
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
順調	計画値25カ所に対し実績値22カ所で、概ね90%となっている。各地域が産学官連携のもと職場体験・ジョブシャドウイング等の地域ニーズに基づいた取組みを実施した結果、若年者の就業意識向上に繋がっていることから、推進状況は順調である。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄型産学官・地域連携グッジョブ事業	93,436	産学官等が連携し就業意識の向上に取り組む地域(協議会、市町村等)に対して補助を行う。昨年度の実績を踏まえて、継続9地域に新規1地域を加えた10地域を補助する。また、補助終了後の地域や協議会新設を検討している地域に先進事例の紹介や研修会等の側面的支援を行う(15地域)。	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
<p>①引き続き、未設置市町村に対して会議やフォーラム等で産学官連携協議会のノウハウ等の情報提供を行い、立ち上げ支援を行う。</p> <p>②引き続き、各市町村協議会の就業意識向上の取組やキャリア教育に関する成功例の情報を広く周知し、コーディネーターの育成研修会を実施する。</p> <p>③平成27年度に確立した効果測定アンケートによる調査を実施し、取組みに係る効果を測定する。</p>	<p>①地域連携プラットフォーム事業にて、関係者会議や県外有識者を招いてのフォーラムを実施し、協議会未設置市町村に対し立ち上げ支援を行った。平成28年度は新規2地区が協議会を立ち上げた(浦添、南城)</p> <p>②地域連携プラットフォーム事業にて、コーディネーター研修会を4地区(北部・中部・南部・宮古)で計10回実施し、合計108人が参加した。</p> <p>③効果測定アンケートの活用方法周知を行った。アンケートを実施できた協議会では、分析の手法として当該アンケートを活用している。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
就業者数	62万人 (22年)	67.9万人 (28年)	65.5万人	5.9万人	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
地域型就業意識向上支援事業参加者	4,408人 (26年)	8,115人 (27年)	9,826人 (28年)	↗	—
状況説明	<p>成果指標である「就業者数」は、基準値である平成23年は62万人、平成28年は67.9万人と改善しており、平成28年目標値65.5万人を達成している。</p> <p>中長期的な視点で、小中高校生等の若年者向けの就業意識向上の取組を実施することにより将来的な失業率の改善を目指す。</p>				

### 3 取組の検証(Check)

#### (1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

##### ○内部要因

・各地域とも産学官が連携した人材育成の必要性については認識しているが、補助終了後の費用負担、学校・家庭・企業等の幅広い関係団体との連携に必要な業務の負担、協議会の事務局を担うことによる負担等から継続的な協議会の運営に不安を抱いている。

・コーディネーターの動きが活発でない地域は、補助終了後の活動が鈍る傾向がある。

・キャリア教育に関する取組みの効果測定については全体的な実施に至っておらず、実施方法や活用方法の説明を継続していく必要がある。

##### ○外部環境の変化

#### (2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・産学官連携協議会を設置しやすい環境を整え、協議会のある市町村を増やすことにより、地域の就業意識向上の取組みが図られ、将来的な就業者数の増加が期待できる。

・継続的なコーディネーター育成により、各地域の就業意識向上の取組みがより効果的に行われ活性化することが期待できる。

・キャリア教育に関する取組みの効果測定を実施し、適正に評価することで取組みの説得力が増し、また学校等関係機関への協力を得るための材料とすることが期待できるほか、協議会未設置地域への波及効果も期待できる。

### 4 取組の改善案(Action)

・引き続き、協議会未設置市町村に対して関係者会議やコーディネーター研修等で産学官連携協議会運営のノウハウ等の情報提供を随時行い、立ち上げ支援を行う。

・引き続き、各協議会の就業意識向上の取組やキャリア教育に関する先進事例の情報を広く周知し、コーディネーターの育成研修会を実施することでスキルアップを図る。

・各協議会の取組みに対して効果測定アンケートを実施し、集計したデータの分析・活用を行うことで今後の協議会活動に繋げる。

## 「主な取組」検証票

施策展開	3-(10)-カ	沖縄県産業・雇用拡大県民運動(みんなでグッジョブ運動)の推進	
施策	①県民一体となった産業・雇用拡大の推進		
(施策の小項目)	○みんなでグッジョブ運動の推進		
主な取組	地域型就業意識向上支援事業(就業意識支援環境づくり)	実施計画 記載頁	314
対応する 主な課題	○雇用者数拡大と完全失業率の改善(全国並み)を基本目標に、平成19年より企業、学校、家庭・地域社会、マスメディア、行政機関などの県民が一体となって取り組んできた「みんなでグッジョブ運動」の結果、平成18年と比べ就業者数は2万2千人増加し(H23)、完全失業率は7.7%から7.1%(H23)への改善が見られる。しかし、なお完全失業率の全国並みには至っていないことから、今後の効果的な運動展開の形態を見極めつつ、引き続き各主体の連携のもとに推進していく必要がある。		

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	地域における若年者等の就業意識向上を目的とした「地域の産学官等が連携する仕組みづくり」を推進し、就業意識の向上に取り組む地域に対して支援を行う。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	10ヶ所 支援地域	15ヶ所	20ヶ所	15ヶ所	→	→	県
	地域に産学官等で構成された地域連携協議会を設置し、就業意識向上につながる地域独自の取組を支援						
担当部課	商工労働部 雇用政策課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄型産学官・地域連携グッジョブ事業	120,183	99,672	就業意識の向上に取り組む地域(産学官地域連携協議会、市町村等)に対し補助を行った(10地域)。 また、産学官地域連携協議会の効果的な取り組みを促進するため、関係者を対象とした戦略会議(2回実施)、フォーラム(121人参加)、コーディネーター研修会(108名参加)を開催し、協議会間の情報共有、県外・県内先進事例の紹介、有識者による講演を行った。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
産学官・地域連携協議会等の活動に対する補助支援地域			15ヶ所	10ヶ所
地域型就業意識向上支援事業参加者数			-	9,826名
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
やや遅れ	計画値15ヶ所に対する実績値が10ヶ所(達成度67%)となったため、推進状況はやや遅れとなった。支援地域としては10ヶ所であるが、地域独自の就業意識向上の取り組みがなされ、地域連携協議会等が実施した取り組みには計9,826人が参加した。また、県の補助終了後も活動している地域、活動休止中の地域、協議会未設置地域が共に参加する関係者会議、有識者を招いたフォーラムを開催し、協議会の継続的な運営や活動の参考となる情報交換の場を設け、側面的支援を行なった。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄型産学官・地域連携グッジョブ事業	93,436	産学官等が連携し就業意識の向上に取り組む地域(協議会、市町村等)に対して補助を行う(10地域)。昨年度の実績を踏まえて、継続9地域に新規1地域を加えた10地域を本年度の活動目標とする。	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度の取組改善案	反映状況
①引き続き、協議会未設置の地域に対して、地域型就業意識向上支援事業の案内や戦略会議・フォーラムを開催し情報提供等を行う。	①未設置地域における協議会等の立ち上げ支援を行い2地域(浦添、南城)が協議会等を新設した。
②引き続き、コーディネーター研修会を実施しコーディネーターの育成を図る。	②コーディネーター研修会を4地区(北部・中部・南部・宮古)で計10回実施し、合計108人が参加した。
③効果測定アンケート調査を実施し、各地域の取組に係る効果を測定する。	③効果測定アンケートの活用方法周知を行った。アンケートを実施できた協議会では、分析の手法として当該アンケートを活用している。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
就業者数	62万人(22年)	67.9万人(28年)	65.5万人	5.9万人	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
地域型就業意識向上支援事業参加者	4,408人(26年)	8,115人(27年)	9,826人(28年)	↗	—
状況説明	成果指標である就業者数は、基準値である平成22年は62万人、平成28年は67.9万人と増加しており、平成28年目標値を65.5万人を達成している。 中長期的な視点で、小中高校生等の若年者向けの就業意識向上の取組を実施することにより将来的な失業率の改善を目指す。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p><b>○内部要因</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域とも産学官が連携した人材育成の必要性については認識しているが、協議会の設置に対しては、学校・家庭・企業等幅広い関係者との調整や協議会事務局を担うことによる負担、補助終了後の費用負担等からハードルが高いと感じている。このため支援地域が計画値まで達成できない状況となっている。</li> <li>・補助終了後も各協議会が就業意識向上の取組を継続的に実施していくためには、予算確保のために必要な情報や効果的な事業展開を図るためのノウハウ、コーディネーターの人材育成等が必要となっている。</li> <li>・キャリア教育に関する取組みの効果測定については全体的な実施に至っておらず、実施方法や活用方法の説明を継続していく必要がある。</li> </ul> <p><b>○外部環境の変化</b></p>
--

## 様式1(主な取組)

### (2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・協議会の立ち上げについては、事業申請の準備を進めながら、関係者間の運営体制の調整や実施事業の検討等で協議会の立ち上げに時間を要してしまい事業をスタートさせることができなかった地域があった。規模の小さな地区に対する適切な助言やキャリア教育に関するフォローが必要である。
- ・継続的なコーディネーター育成により、各地域の就業意識向上の取組みがより効果的に行われ活性化することが期待できる。
- ・キャリア教育に関する取組みの効果測定を実施し、適正に評価することで取組みの説得力が増し、また学校等関係機関への協力を得るための材料とすることが期待できるほか、協議会未設置地域への波及効果も期待できる。

## 4 取組の改善案(Action)

- ・引き続き、協議会未設置の地域に対して、地域型就業意識向上支援事業の案内や関係者会議等への参加を呼びかけ情報提供を随時行う。
- ・引き続き、各協議会の就業意識向上の取組やキャリア教育に関する先進事例の情報を広く周知し、コーディネーターの育成研修会を実施することでスキルアップを図る。
- ・各協議会の取組みに対して効果測定アンケートを実施し、集計したデータの分析・活用を行うことで今後の協議会活動に繋げる。

## 「主な取組」検証票

施策展開	3-(10)-カ	沖縄県産業・雇用拡大県民運動(みんなでグッジョブ運動)の推進
施策	①県民一体となった産業・雇用拡大の推進	
(施策の小項目)	○みんなでグッジョブ運動の推進	
主な取組	未来の産業人材育成事業(就業意識支援環境づくり)	実施計画 記載頁 314
対応する 主な課題	○雇用者数拡大と完全失業率の改善(全国並み)を基本目標に、平成19年より企業、学校、家庭・地域社会、マスメディア、行政機関などの県民が一体となって取り組んできた「みんなでグッジョブ運動」の結果、平成18年と比べ就業者数は2万2千人増加し(H23)、完全失業率は7.7%から7.1%(H23)への改善が見られる。しかし、なお完全失業率の全国並みには至っていないことから、今後の効果的な運動展開の形態を見極めつつ、引き続き各主体の連携のもとに推進していく必要がある。	

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	産業界と学校現場をつなぐコーディネーターを配置し、中長期的な視点のもと、小中学校で、雇用に課題を抱える業界と連携し、業界理解を深め産業人材を育成するための取組を行う。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
				6,500人 参加者	→		県
担当部課	商工労働部 雇用政策課						
	産業界と学校現場をつなぐコーディネーターを県内小中学校に配置し、将来世代の産業人材を育成						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
未来の産業人材育成事業 (就業意識支援環境づくり)	35,356	34,600	観光リゾート産業、情報通信産業、建設産業、福祉産業、医療産業、文化産業、物流・流通産業の7業界と連携し、県内小中学校にて職業人講話、出前講座、企業見学ツアー等の産業理解を促す取組を行った。 活動指標の参加者数については、計画値6,500人に対し、実績値7,885人となった。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
未来の産業人材育成事業参加者			6,500人	7,885人
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
順調	活動指標としている本事業参加者について、計画値6,500人のところ実績値7,885人(計画値の達成度が約121%)と順調であり、県内全域の小中学校にて、各業界団体と連携した産業理解を促す取組を行うことができた。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
未来の産業人材育成事業(就業意識支援環境づくり)	35,356	産業界と学校現場をつなぐコーディネーターを配置し、雇用に課題を抱える業界と連携し、県内小中学校にて職業人講話、出前講座、企業見学ツアー等の産業理解を促す取組を行う。	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
①全県的な事業展開を図るため、職業人講話等の実施数を増やすとともに、特に離島地域、北部地域での事業実施に向けた学校開拓に力を入れる。	①職業講話等の実施数121回(H27年度90回)、うち離島及び北部地域41回(H27年度30回)と、離島及び北部地域を含め、より全県的な事業展開を図ることができた。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
就業者数	62.0万人(H22年)	67.9万人(H28年)	65.5万人	5.9万人	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
未来の産業人材育成事業参加者	—	7,459人(27年)	7,885人(28年)	↗	—
状況説明	成果指標である「就業者数」は、基準値である平成22年は62.0万人、平成28年は67.9万人と増加しており、平成28年目標値を達成している。 本事業では、中長期的な視点のもと、産業界と連携し、小中学生向けに職業人講話、出前講座、企業見学ツアー等産業理解を促すための取組を行っており、実績についても、事業参加者7,885人、実施回数121回とそれぞれ昨年度と比べ増加している。このような取組を引き続き推進することで、将来的な産業人材を育成し、雇用に課題を抱える分野等への人材の輩出と就業者数の拡大を図る。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <p>・県内小中学生の産業理解の促進や各業界に対する興味・関心の想起を図るため、児童生徒向けの職業人講話等の取組を県内全域で実施しているが、本取組実施後アンケートの結果では、授業(取組)を受けた産業に対して、「興味を持った」と回答している児童生徒は約50%に留まっている。</p>
<p>○外部環境の変化</p> <p>・特になし。</p>

## 様式1(主な取組)

### (2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・児童生徒の各産業への興味・関心をより一層引き出すため、職業人講話等取組の内容の充実を図る必要がある。

### 4 取組の改善案(Action)

・各産業界及び教育関係機関と連携し、児童生徒に対しより一層各業界の魅力発信を行える職業人講話等取組のカリキュラムを作成するほか、各産業界における講師人材の育成研修をモデル的に実施することで、本取組の内容の充実を図る。